

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
人体構造機能学実習	2年次	必修	実習	1単位(45時間)	市瀬慎一郎
授 業 概 要					
<p>人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける臓器、臓器を構成する細胞について理解することを学習目標とする。ブタやヒトの組織標本を用いて組織的形態と機能の間の関連について形態学的に理解する。また、顕微鏡観察によって染色体レベルから組織レベルでの構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞・組織学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。身体を客観的にとらえ、主観的に表現することで、身体の構造と働きの理解を深める。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の組織構造を図示し、それらの機能を説明できる。</li> <li>・主要臓器(肝、腎、心筋、消化器、腺等)の正常、病理標本を観察し、スケッチし、それらを説明できる。</li> <li>・バイタルサイン(血圧、脈拍)を測定できる。</li> <li>・重量感覚検査と皮膚感覚検査を行い、感覚の種類や閾値について概説できる。</li> <li>・赤血球数、白血球数、ヘモグロビン値、ヘマトクリット値を測定法、赤血球恒数の意義を概説できる。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
回	学 習 内 容				担当教員
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15・16 17・18 19・20 21・22 23・24	<p>オリエンテーションと人体模型による臓器位置の確認  消化器系と肝臓の観察  筋肉の観察  血圧の測定  心電図  血球の観察と血液型検査  染色体の観察①  染色体の観察②  心肺蘇生法 原理と習得  体組成  皮膚感覚、運動神経系、盲斑の検出  実習試験</p>				市瀬慎一郎
学 習 方 法					
<p>実習時は白衣(実験用)を着用のこと。  レポート(オリジナル実習プリント)の提出は、提出期限・形式を守ること。  事前に教科書などで授業内容を予習すること。</p>					
評 価 方 法					
<p>[評価方法]  科目修了試験、レポート評価(実習態度も含め総合的に評価する)。</p>					
先 修 科 目					
教 科 書 、 参 考 書					
<p>[教材] 配布資料を使用  [参考書] 「カラー図解 新しい人体の教科書-からだの構造と機能を学ぶ 第1巻、第2巻」山科正平著(講談社ブルーバックス)、「基礎栄養学」奥恒之・柴田克己編(南江堂)</p>					